

始良・伊佐 NO.9 (05.12) 特集号 「九条の会」ニュース

発行 / 「九条の会」アピールに賛同する始良・伊佐の会
事務局 / 立山征男 〒899-5115 霧島市隼人町東郷561-5 TEL 090-5737-8733
毎回、会報・ニュースを発行していきます。
メール原稿は、kmori@po.synapse.ne.jp へ直接、届けてください。(編集担当)

「10・15 国分自衛隊 イラク派遣 反対集会」

10月15日(土)夕方5時から国分自衛隊正門前の公園で「10・15 国分自衛隊 イラク派遣 反対集会」が開かれた。

ここは60年前、沖縄作戦にて特攻隊が発進した記念碑があり、当時を知る世代からは、「隊員の若者が本当に死を受け入れたらどうか」「親や兄弟たちは泣こうにも泣けなかった・・・」この国分基地を作るため、朝鮮から連行された労働者が日本人から酷使され、アイゴーと叫んでいた光景を忘れられないとの発言があった。

また、イラク南部・サマワの地では、劣化ウラン弾が遺棄され、白血病が多発、退役したアメリカ軍兵士の子どもにも疾患が多発している。小泉首相は、わが息子、わが夫として自衛隊員の生命を考えているのだろうかとの声があった。集会アピールを読み上げた後に正門ゲート前を約100名の参加者がキャンドルを手にしてデモに移った。

上映後、講演する綿井健陽監督



集会後、自衛隊周辺をデモ行進



「リトルバードを観る会」実行委員会の呼びかけで、

「Little Birds イラク 戦火の家族たち」の上映と監督講演会

10月22日(土) 国分市のシビックセンターにて行われた。参加者は180名で3時間の間、熱心に観、聴き入った。綿井健陽監督の講演は次のよう。

イラク人死者は2年間で3万人を越えた。米軍兵士が2千人、日本人も香田さんたちが殺された。なぜ日本が米軍と手を組んでイラクに来るのか、小泉首相の発言や日本がアメリカ側にどう付いているのか、よく知られている。映画で考えたいのは日本の立ち位置」である。映画にあるが、私が「いつ爆撃されたか」と問うたときに「ノーアンサー」と鋭く拒まれた。日本はイラクの人たちを敵に回したと直感した。自衛隊派遣が決定的だった。

<イラク戦争前のバクダッド>

2003年のイラク戦争前であれば、バクダッド市内は、夜の10時頃まで屋台、売店で人通りは絶えなかった。日本人を見れば、ヒロシマ、ナガサキかと話しかけ、戦火から復興した国として好感、信頼感を持つ人がじつに多かった。1万人近い日本人が駐在していた。日本製品を通じて日本は身近な存在だった。しかし、いま有形無形の財産を失いつつある。もともとイラクは豊かな国であった。1980年代まで医療施設も中東一であった。湾岸戦争と国連の経済制裁、イラク戦争で国がズタズタにされた。

<現在のイラクと日本>

ある上映会のアンケートで「日本は平和でよかったと思います」と一行だけの感想があった。「日本の立ち位置」をよく知らない、映画で伝えられなかったと思った。2004年4月、米軍がファルージャを封鎖し、高遠菜穂子さんたちが人質となったとき、沖縄国際大学に米軍ヘリが墜落した。これはファルージャ攻撃に向かう普天間基地のヘリであった。F15 戦闘機も嘉手納から出撃し、沖縄の海兵隊員3、4千人が、キャンプ・ハンセンから送られている。橋田さんたちのグループの支援で目の治療に来日したモハマド君が、沖縄に来れば、上空の米軍ヘリを見て、ファルージャと同じと気づくはずだ。日本、沖縄はイラク戦争の出撃基地である。

<自衛隊派兵で選択肢を狭めた>

白血病で急になくなる子どもが広がっている。NGOによる医薬品の支援が必要である。しかし、同時に「何をしたいのか」を考えるべき時である。2005年の今、サマワで自衛隊は何をしているか、実態が見えない。3日に一回、数カ所を巡る程度で今では給水活動も終わった。宿営地に留まるのみで600名の内、外へ出るのは10数人である。何のために自衛隊がいるのか。『東京新聞』では、来年5月には撤収予定。自衛隊・防衛庁は撤退したいと考えているが、首相官邸、外務省が、また日本経団連が「チアボーイ、チアガール」になっている。シビリアンが暴走している。自衛隊の問題は送る側の問題である。

<軍隊ではなく民間のNGOこそ>

最初は、自衛隊のあとトヨタなど日本企業が来ると思ったらしい、1年半経ったらサマワでの自衛隊評価が変わってきた。シーア派指導者が「自爆テロ」を警告している。サマワに敵意を作りつつある。宿営地に500人いるが、この2年間で650億円をかけた。自衛隊員一人を派遣するのに1億円をかけている。JVC(日本ボランティアセンター)の原さんがヨルダンで買っている医薬品であればどれほど確保できたか。自衛隊派遣が「日米同盟」のための自己目的になってしまった。軍隊という選択肢をとれば、民間のNGOという選択肢はなくなる。フランスのNGOは給水活動を自衛隊よりもやっている。フランスが軍を派遣していたら民間の活動はできただろうか。

<爆弾は人間を殺傷する無数の破片である>

状況は悪化している。映画に出てくる子どもたちは、手術を施しても眼球の破片は取り除けない。戦争では爆弾の破片、ガラス、コンクリートの破片である。無差別に炸裂する。クラスター爆弾による精密誘導、ピンポイント爆撃と言おうとも無数の爆弾の破片は周囲に飛散して人々を殺傷する。地上に残された不発弾は地雷のようにして人々を襲う。日本の防衛庁も所持していた。被害は無差別化する。劣化ウラン弾は、体内被曝であるがいつ症状が出て来るか、1991年の湾岸戦争の影響が今、現れているともいう。

<中東で見た九条の会>

九条の会、有明コロシアムでの一万人集会、広島での祈りを捧げる外国人音楽家、福岡からの自衛隊の出発式、これら3点の記事が同時にクウェートの英字新聞2紙(『アラブ・タイムス』『クウェート・タイムス』)に出ている。これが現在の日本のねじれた「立ち位置」であろう。3ついつぺんには進まない。このねじれをどちらに戻すのかが問われている。

アンケートから

Q1 何によって知りましたか。

新聞 2 ポスター 4 実行委員会 9 その他 8(母から 自治労 知人から 友人から 生協病院 綿井さんのホームページ 組合から 知人と一緒に)

Q2 映画はどうでしたか。 とても良い 23

Q3 講演はどうでしたか。 とても良い、21 どちらかと言えばよかった。 2

(米国を批判するだけでなく、もっと国際ボランティアセンター(JVC)のような活動を広げることが大切ではもう少し詳しく)

Q4 今後どういう企画を(平和学習 平和を廻る旅 リトルバードの続編をお願いしたいが(戦争の)終結を祈りたい)

「米軍給油機の鹿屋移転反対」で 600 名の集会とデモ

11 月 1 日 (月) 6 時より鹿屋市役所前で「鹿屋に米軍は来るな」「給油機の配備反対」を掲げて、約 600 名の参加のもと集会とデモが行われた。

大隅の農家を代表して、今でさえ自衛隊機の騒音被害が問題であるのに、米軍移駐で地域の畜産業が深刻な悪影響を受けると訴えた。市内の自治会長は、三百名の米軍駐留で経済的効果があるとの声があるが、ならば沖縄は米軍基地で地域経済が発展しただろうかと問いかけた。

母親からは 1995 年の沖縄での米軍少女暴行事件のように安心して暮らせる地域ではなくなってしまうと危惧の声を上げた。今後、自衛隊と米軍の基地共用化が強まり、日米同盟の名のもと自衛隊が米軍とともに「海外遠征軍」化してゆくことが予想され、そのために憲法改悪と集団自衛権の明記がある、憲法九条を守る運動と一体で鹿屋への米軍移転に反対しようと結んだ。



05.11.1 米軍給油機鹿屋移転反対集会



05.11.3 「憲法のいま」小森陽一氏

11.3 日本国憲法公布 59 周年 「憲法のいま」

11 月 3 日、かごしま九条の会が主催、自治会館大ホールに約 500 名が集まり、「九条の会」事務局長である文学研究者・小森陽一氏 (東京大学) が 2 時間の講演を行った。要旨は次のよう。

さきにアミテージ国防長官やパウエル国務相長官が、「日米同盟の強化のために憲法 9 条が妨げになっている」とあからさまに述べた。武力攻撃事態法では、米国の武力発動、先制攻撃と同時に日本の防衛庁・自衛隊が連携をとる態勢になっている。それでもなお世界で実質 2 位にもなる防衛費をもつ自衛隊をながく <封印> してきたのは「憲法九条」の力である。米国の巨大な軍需産業と石油エネルギー産業にとっては、世界がつねに「戦争状態」であることが収益に不可欠だ。

中東・パレスチナに戦火があるのと同じく、東アジアで北朝鮮が「危険な独裁国家」として紛争の火種となるほうが日米の軍需産業には好都合である。日本は総額 1 兆円に達するミサイル防衛構想 (MD) に税金を費やそうとしている。超音速の弾頭を打ち落とすことは成功していないにも関わらずである。「憲法九条」があったがために日本はさきのベトナム戦争に派兵、参戦しなかった。ベトナムに送られた韓国の「団塊世代」は、おのれがベトナムで何を行ったのかを告白してから、大学では授業を始める。1998 年に金大中政権を生み、2000 年に南北首脳会談を実現したのは、東アジアを再び紛争地域にさせないという多くの意思である。これに呼応するのが日本では「憲法九条」のもつ力だ。だから私たち一人ひとりが命を賭しても九条を守らねばならない。

2006 年 1 月、2 月の憲法企画

「鹿児島近代社会運動史」講演の集い

1 月 21 日 「鹿児島近代社会運動史」出版記念の集い

講師 川寄兼孝 久米雅明

時間 1 部(15:00~) 講演会 (無料)

2 部(17:30~) 懇親会 5000 円(書籍代込み)

著者らによるサインと販売会があります。

場所 教育会館 2F ホール

主催 / 始良伊佐ブロック平和センター

2 月 11 日 (建国記念の日)

~ 自民党「新憲法案」を読む ~

講師 未定

時間 14:00 ~ 16:00

場所 天降川共同利用施設

(京セラ隼人工場ウラ)

(05 年 3 月の設立総会の会場です)

主催: 「九条の会」始良伊佐の会